

Sato Project

Sato Project

農業が環境を破壊するとき—ユーラシア農耕史と環境—
「里」プロジェクト

お問い合わせ

総合地球環境学研究所佐藤研究室 (大島) e-mail:mihosma@chikyu.ac.jp

〒603-8047 北区内賀茂本山 457-4 Tel:075-707-2384 Fax:075-707-2508



「水無月」は六月を代表する、ういろう生地に粒餡がのった涼しげなお菓子です。氷をイメージしたもので、昔は貴重な氷の替わりにしていました。

<http://www.nakamuraken.co.jp/wagashi.html>

「平成メロン騒動の主役者とは？」

田中 克典(地球研)

「RIHN & CARDI 研究協力協定締結（地球研にて）」

平成メロン騒動の主役者とは？

田中克典(地球研)

去年の冬、初めて滋賀県守山市下之郷町の下之郷遺跡を見学した時に、お話し用に遺物をいただきました。それが・・・去る5月31日、弥生時代のメロンの果実が発見されたとして新聞に掲載されました。新聞発表の前後1週間は、発見に携わった方々の周辺を騒々しくしてしまい、「もうしわけないなあ〜」、と思いながら、地球研に着任した当初に言った抱負を思い出しました。(「徐々に暴れたいと思います」)。

さて、遺物を発見するには分析者もさることながら、その遺物を快く提供してくれた現場担当者と遺跡を採掘されている方々に感謝したいです。

ですがなぜ、初対面の小生に貴重な遺物を預けて、分析まで依頼してくれたのでしょうか？その答えは、下之郷遺跡では遺跡現場を通じて地域住民との交流が盛んに行われており、熱心に研究活動に取り組んでいるからかもしれません。今回はその一端をご紹介します。

2月の下旬頃、遺物の分析結果を電話越しで遺跡担当者に伝えたら、「遺跡に来て、みんなの前で発表して」とのことでした。誰の前で発表をするのか皆目見当も付かずに、足取り重く遺跡へ赴きました。下之郷遺跡の周辺は住宅と水田があり、道路も通っています(写真1)。こんなところに遺跡があるとは信じられないのですが、写真1の下も遺跡とのこと。弥生時代から2000余り。「次の2000年後にはどうなっているのだろう」と思いました。



写真1 下之郷遺跡の周辺
遺跡の上にはコンビニエンスストアがあり、住宅街である

遺跡の事務所に着きました。プレハブ小屋の中では、地域住民の方々が集まっていた。どうやら、現場担当者と地域住民主催の勉強会（活動報告）に招かれたようです(写真2)。



写真2 遺跡の現場に隣接する小屋とその中で行われた勉強会の風景
勉強会には阪本寧男先生が来られてました

勉強会には、現場担当者、地元の方々だけでなく大学の先生方が参加されており、丁寧にもプログラムが用意されていました（写真3）。



写真3 勉強会のパンフレット
特別講演は大阪学院短期大学教授の竹井恵美子さんと、南西諸島の雑穀の栽培と利用でした

遺跡では、石器の他に、材、植物遺物や動物遺物が出土します。周辺住民により結成された「イネと雑穀の会」、「しものごう会」、「弥生織りの会」では、そうした出土遺物を受けて古環境の復元を試みており、実物・実演を交えながらその研究成果を報告されました（写真4、5）。やはり、実物がありわかりやす

かったからでしょうか、参加者はよく質問されていました。



写真4 イネと雑穀の会による弥生時代の食べ物
a 左から栗餅、赤米のおこわ、ゴリの佃煮
b 漬け物3種
左上から時計回りに、たくあん漬け、ハスイモの漬物
キュウリの漬物
c 赤米で仕込んだフナ寿司

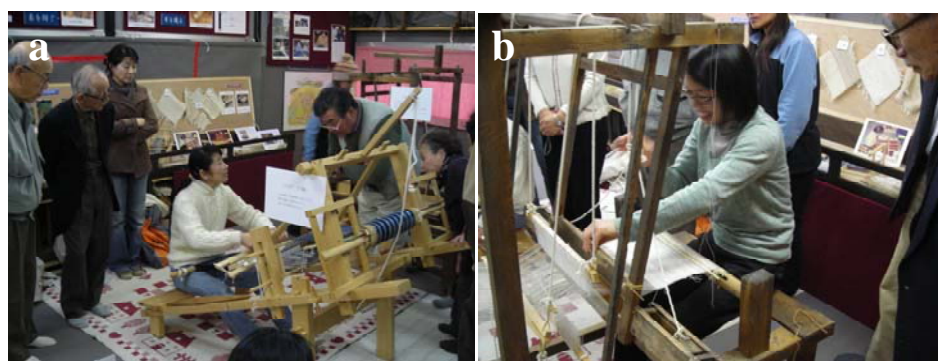


写真5 遺跡において出土した材から復元した3種類の機織り
実演中も参加者からの質問が相次いでいた
a 下之郷遺跡でも古くからつかわれていたしもばた
b 下之郷でも古くから使われていたかみばた

下之郷遺跡の勉強会に参加して一番印象的だったことは、老若男女問わず話が飛び交い、現場担当者、地域住民ともに熱心なことでした。例えば、遺跡で栽培されていた作物が話題になると研究者が話し、そのうち遺跡周辺で古くから作られてきた作物が話題にあがるので、おばあちゃんが話し、ここ数十年の植生・人々の生活について貴重な話が聞けました。また、古環境復元のために大学の先生に種子を分譲してもらい栽培指導を請うほど貪欲に研究に取り組む姿勢は、見習うべき点だと思いました。おそらく、地域に根ざした研究会があり、その場を設けるほど研究熱心な現場担当者に巡り会ったからこそ、メロン果実の遺物が発見できたのでしょう。ふと、遺跡にある貴重なモノは遺物だけじゃない、と思いました。

RIHN&CARDI

(Cambodia Agricultural Research and Development Institute)

研究協力協定締結

去る6月11日(月)に、地球研で研究協力協定が締結されました。

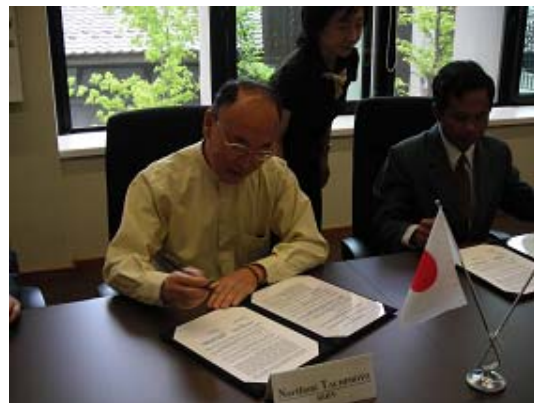


両研究所の所長をはじめ、佐藤プロジェクトのリーダーである佐藤洋一郎先生、イネ班リーダーの石川隆二先生、地球研のFS (Feasibility Study)でプロジェクトリーダーの佐藤雅志先生、中村郁郎先生、石井尊生先生、そして上級研究員(地球研・イネ班)福永健二さん、管理部研究協力課長らが出席。

研究所間でのこうした協定締結は地球研では初めてのことで、なかなか緊張した面もありながら、スムーズな進行で締結が行われました。

軽い昼食を終えてから、記念シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは地球研及び、弘前大学(6月13日)で行われました。

下記の模様は地球研講義室にて行われたものです。様々な議論が飛び交ったようです。



今後の更なるイネ班の活躍を期待して、よりよい研究が進むことを願っています。

佐藤プロジェクト(NL 担当) 大島美帆